**令和4年度 第1回 介護・医療連携推進会議 記録**

* 事業所情報

|  |  |
| --- | --- |
| 法人名 | 社会福祉法人慶生会 |
| 事業所 | 慶生会住道ヘルパーステーション |

* 開催日時・場所

|  |  |
| --- | --- |
| 日時 | 令和5年3月23日（木）13:00～14:10、15:00～16:15 |
| 場所 | 大東市市民会館203号室 |

* 参加者状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 職種等 | 人数（計28名） | 1部（16名） | 2部（12名） |
| 介護支援専門員 | 19名 | 8名 | 11名 |
| 訪問看護事業所 | 1名 | 1名 |  |
| 通所介護事業所 | 3名 | 2名 | 1名 |
| 福祉用具系事業所 | 1名 | 1名 |  |
| 薬局関係 | 1名 | 1名 |  |
| 地域の皆様 | 1名 | 1名 |  |
| その他 | 2名 | 2名 |  |

* 議事

|  |  |
| --- | --- |
| NO | 議事内容 |
| 1 | 定期巡回随時対応型訪問介護看護の説明 |
| 2 | 利用状況報告 |
| 3 | 導入事例紹介 |
| 4 | 意見交換、質疑応答 |

* 記録

|  |  |
| --- | --- |
| 議事1 | 定期巡回随時対応型訪問介護看護についての理解度を高める。 |
|  | ・サービスとして、定期訪問、随時対応、随時訪問、生活アセスメント（月1回）がある。  ・連携型の為、訪問看護が必要な場合は、提携している事業所であれば併用可能。  医療保険での算定であれば、どこの事業所でも介入可能。  ・月途中からの利用又は終了は日割りで算定。その他、ショート利用時も日割りとなるが、  ショート終了日は算定対象となる。（2泊3日であれば、2日間のみ日割り減算となる）  ・初期加算は、利用開始日から連続した30日が算定上限であり、途中ショート利用等により日割り減算となった場合は、当初の期日を繰り越しての算定は出来ない。 |
| 議事2 | 利用状況報告 |
|  | ・令和5年3月現在31名が利用されている。  要介護1（11名）、要介護2（ 8名）、要介護3（ 4名）、要介護4（ 2名）、要介護5（ 6名）  ・今年度の男女比（男性27％、女性73％）  ・介護度別構成比は、要介護1（39％）、要介護2（19％）、要介護3（14％）、要介護4（14％）、要介護5（14％）と軽介護度が6割近くを占めている。  ・新規利用者は30名で、半数は他事業所からの紹介。また、40％が要介護1である。  終了者は24名で、施設入所（特養や有料ホーム）が37％、在宅復帰や状態改善等によるプラン変更が42％、永眠が17％となっている。  ・訪問回数別のサービス内容としては、安否確認、水分補給、服薬確認、配下膳、オムツ交換の順で訪問回数が高くなっている。 |
| 議事3 | 導入事例報告 |
|  | 事例1）86歳男性　要介護2  自宅では独居で近隣の家族は就労されており金銭管理等でサポート。2型糖尿病や認知機能障害等あり、薬の飲み忘れや自宅に帰れなかったことがあり不安。  ⇒朝にインシュリン自己接種の見守り及び服薬確認、夕方に安否確認で毎日介入したことで、状態安定し、家族の不安も軽減  事例2）88歳女性　要介護5  自宅での転倒により左肩骨折を保存療法で養生中、1ヶ月以内で寝たきりとなり褥瘡を併発。  介護者も高齢であり、家族は遠方の為、介護力は期待出来ない。  医療保険で訪問看護が介入となり、情報交換等連携することで対応。褥瘡治療の為、老健入所となり、褥瘡は完治。施設入所への罪悪感があり、少しでも自宅で過ごしたいとの思いから、自宅で過ごす期間を設け、その際、家族の介護および精神的負担軽減の為、訪問看護と連携しサポート。 |
| 議事4 | 意見交換、質疑応答 |
| 質問1 | 訪問回数に制限はあるのですか？ |
| 回答1 | サービス内容を考慮し、アセスメントにより定期訪問回数を決めています。状況に応じて、随時対応又は随時訪問を追加する場合があります。 |
| 質問2 | 要介護1等の軽度者のイメージはどのようなものですか？ |
| 回答2 | 認知機能面での不安改善で、服薬確認や安否確認での介入が見込まれます。また、比較的元気な方が多い為、デイサービス等を複数回利用されています。  要介護1ならば、週3回利用される方もいます（デイ事業所にもよる）。  要介護3で、定期巡回とデイのみで週3回（月12回程度）利用されている方もいます。 |
| 質問3 | 生活リズムが改善した事例はありますか？ |
| 回答3 | 昼夜逆転していた方に対して、定期訪問により時間を定着し、昼間は起き、夜間は眠るリズムを構築。更にデイサービスを利用する事でメリハリが出来、昼夜逆転が解消されたケースがあります。 |
| 質問4 | 服薬確認はどの程度行っているのですか？ |
| 回答4 | 基本、利用者がきちんと服用されたのか目視し、飲み残し等ないか確認しています。  眼前で服用されない場合は、服用された跡（空の袋有無等）を確認しています。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 議事録作成 | 奥野 尊宣 |

以上